

---

# EXCEL VBA 講座

他の book の読み込み

---

---

## 【目次】

他の book を参照する.....	3
他の book を開いてみる .....	3
階層をたどってセルの内容を見る.....	4
フォームを作って最初に呼び出すようにしてみる.....	5

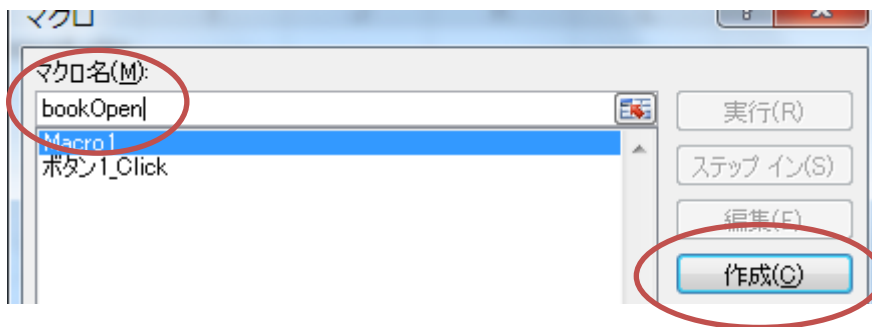
## 他の book を参照する

前は自分の Sheet 上の勤怠集計をしました。一人ならいいのですが、これが多人数で毎月となると各 sheet にこのボタンを貼り付けないと集計できません。そこで入力する book と集計する book を分けて、集計する book から入力済の book を読み込むようにする準備をしましょう。

### 他の book を開いてみる

まずは他の book を指定する方法をやってみましょう。

マクロアイコンを開いて、「bookOpen」という名前のマクロを作成しましょう。



Excel はあらかじめ作成されているクラスというものが階層化されてできています。クラスに関しては、別の PDF「クラス」で説明していますので、わからない方はそちらを先にお読みください。

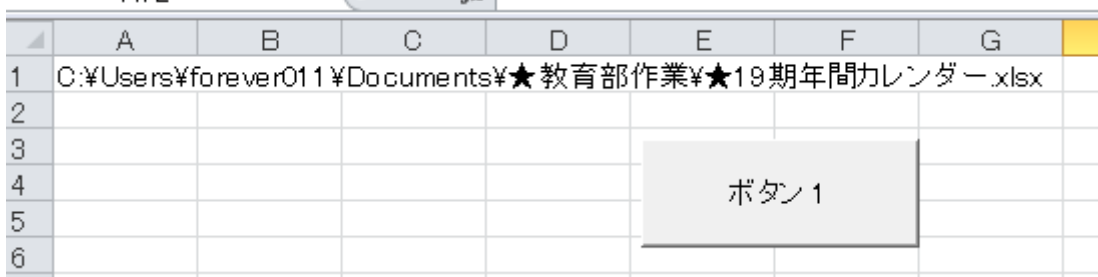
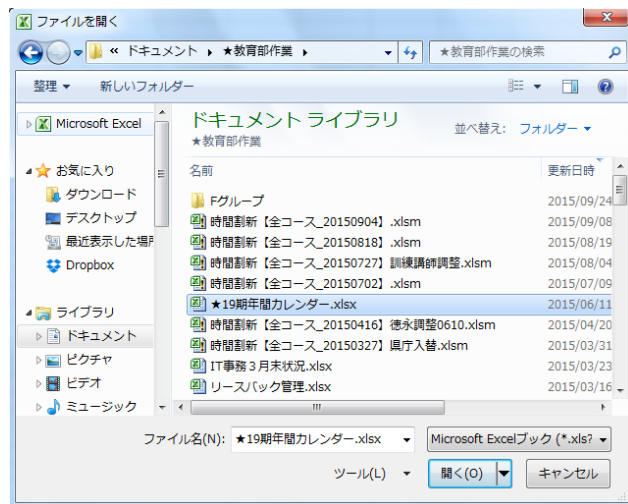
Excel の一番外のクラスの Application を使うと、外部の book を参照することができます。Application クラスの GetOpenFilename メソッドを利用すると、指定したファイルの一覧を表示して、そこからファイルを選択することができます。ファイルを選択したらそのフルパス名を A1 に表示します。

```
Sub bookOpen()  
    Dim OpenFileName As String  
    Dim a1 As String  
  
    OpenFileName = Application.GetOpenFilename("Microsoft Excel ブック,*.*xls?")  
    Range("A1").Value = OpenFileName
```

今回はファイル拡張子が xls で始まる 4 文字のファイルだけ一覧に表示しますので、それ以外のファイルは選択できません。

一覧からファイルを選択して、開くボタンを押すと選択したファイル名が OpenFileName に返ってきます。

次の行ではその選択したファイル名を Range A1 に出力するので選択したファイルを知ることができます。



実行すると A1 にファイル名が表示されます。

### 階層をたどってセルの内容を見る

さて、ファイルを指定することができたら、Application の下のクラスの Workbook クラスで book を開きます。参照用なので ReadOnly にします。また、それを表示するわけではないので ActiveWindow.Visible=false で呼んだ window を非表示にします。

```
If OpenFileName = "False" Then Exit Sub
Set objB = Workbooks.Open(Filename:=OpenFileName, ReadOnly:=True)
ActiveWindow.Visible = False
```

Workbook が開いたら、その下の Sheets クラスで先頭の sheet を開きます。シートが開けばその下の Range クラスで内容を見ることができるはずですが。

```
Set objSH = objB.Sheets(1)

a1 = objSH.Range("A1").Value
Range("A2").Value = a1

Set objSH = Nothing
objB.Close SaveChanges:=False
Set objB = Nothing

End Sub
```

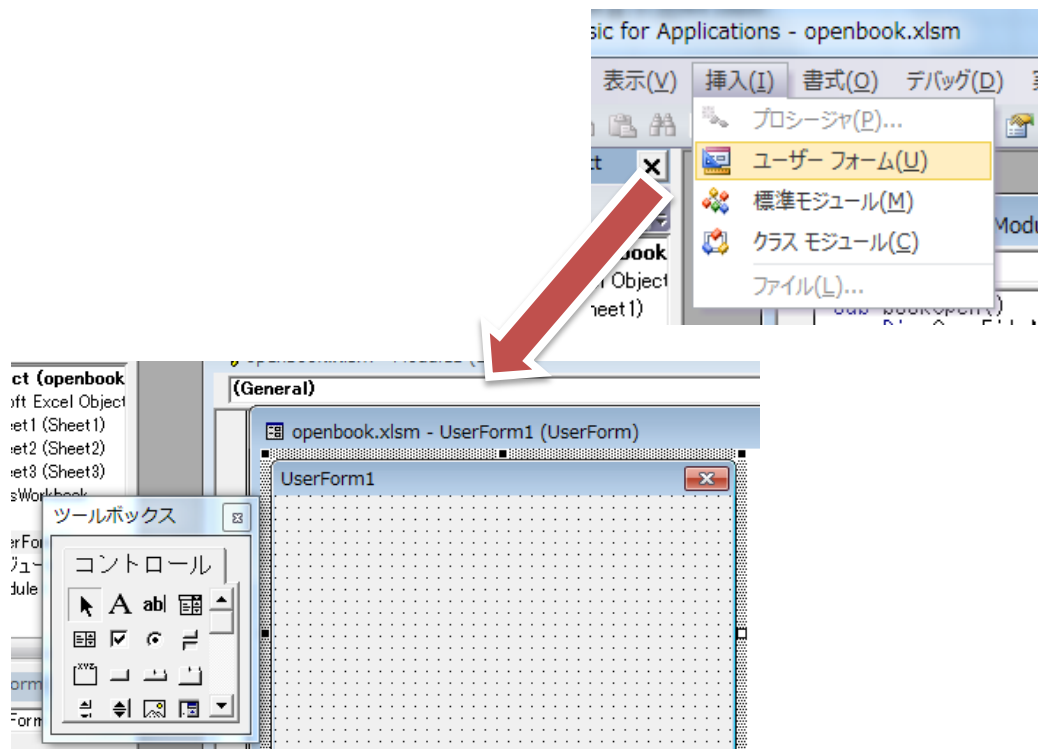
読み込みが済んだら、さっさと閉じますが、変更するわけではないので SaveChanges:=false とします。これで保存しますかを聞かれずに済みます。

閉じるときは、開くときの逆順に閉じていきます。最後に開いたシートを閉じ、次に book を閉じて、破棄します。

### フォームを作って最初に呼び出すようにしてみる

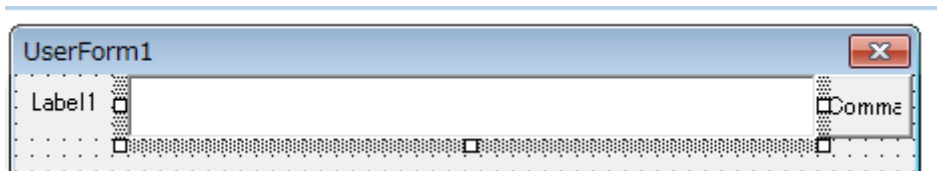
現在はこのファイルを bookOpen マクロとして呼び出していると思いますが、これをフォームから呼び出すように切り替えて見ましょう。

Visual Basic の画面で、挿入メニューからユーザーフォームを選びます。

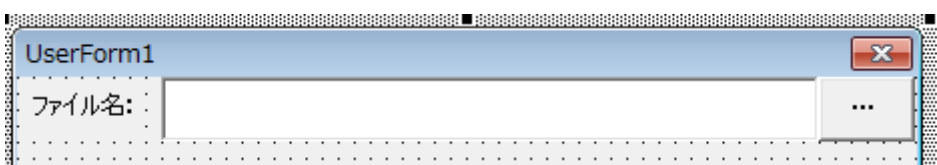


このフォームにファイル選択のボタンとファイル名表示を作ってみましょう。

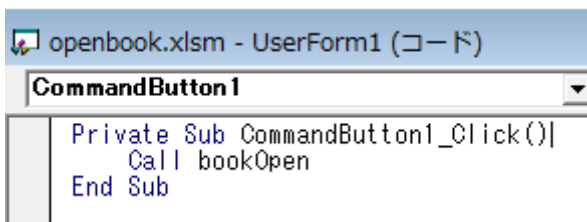
画面を横に広げて、ラベル、テキストボックス、コマンドボタンをツールボックスから貼り付けましょう。



名前や表示を調整します。見た目は caption で変更します。

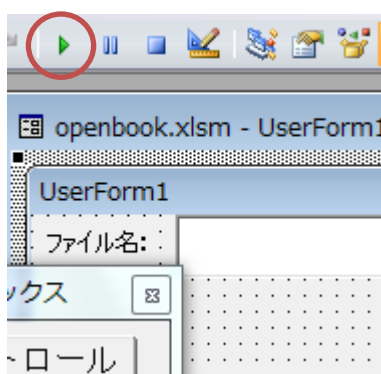


コマンドボタンをダブルクリックすると、フォームの vba を書くことができます。



ここで、さきほどのマクロを call してあげれば、ファイル選択マクロを呼び出せます。

フォームの起動は VBA で UserForm1 を選択して一番手前に表示してから緑のプレイボタンで起動します。



しかし、このままだと、A1 にファイル名が出てしまうので、そこを改造しましょう。

'ファイルを選択する

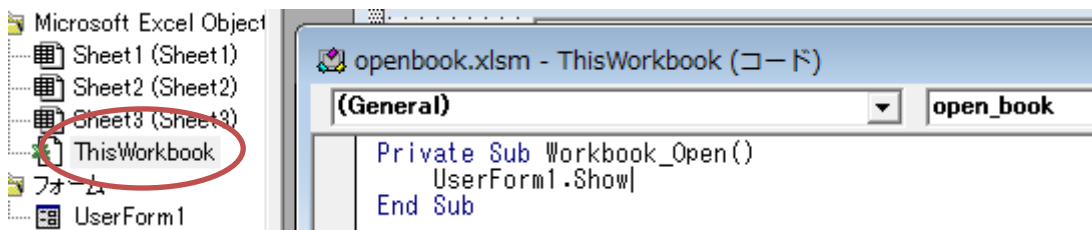
```
OpenFileName = Application.GetOpenFilename("Microsoft Excelブック, *.xls?")
```

```
UserForm1.TextBox1.Value = OpenFileName
```

OpenFileName を A1 に出力する代わりに UserForm1.TextBox1 に出力します。

最後に、このフォームをファイルオープン時にすぐ起動されるように改造します。

VBA 画面で ThisWorkbook をダブルクリックして開いた画面にプログラムを記入します。



```
Private Sub Workbook_Open()
```

```
    UserForm1.Show
```

```
End Sub
```

これで保存してから、Excel を再起動すると、フォームが表示されます。